

日本語英国教会ニュースレター

第 82 号 2016 年 11 月発行

パウロとルカ

日本聖公会 竹内謙太郎司祭

新約聖書をご覧になると、そこには四つの福音書と多数の書簡が載せられていることに気づきます。中でも重要なことは、実はそのほとんど全てがパウロによるものであり、さらに、それに加えてルカという人物が書き残したとされているルカによる福音書と使徒言行録という 2 巻の文書があることです。

パウロという人は生粋のユダヤ人で、しかもユダヤ教という信仰体系に習熟しているいわば神学者ともいえるほどの教養のある人でした。一方、ルカはギリシア人です。彼はギリシア人、つまりユダヤ人からすれば異邦人であるわけです。この二人の関係をはじめに明らかにすれば、かれらは師と弟子という関係にありました。ですからパウロのもとにあって、パウロの伝道旅行に同行し、恐らくパウロの秘書役を務めたりしたと思われます。ですから、新約聖書の内容を見たときに、この二人が書き残した文書がいかに多いか、そしてその故に新約聖書はこの二人が作ったとさえ言えるほどだと思えます。さて、ルカがギリシア人であると申しましたが、その意味は重要と思えます。と、申しますのは彼が何故あえて、イエスの運動に参加したかということなのです。

イエスの運動とは、最も厳格な意味で、ユダヤ教の改革運動でありました。旧約聖書によって示されている律法に基づく信仰と信仰的行為の墮落した状況への革命的な対決がイエスの運動の本質です。そこには必ずしもすべての人々に対する、といった意味は明らかになっていません。ですから、当初、パウロは厳格なユダヤ教徒として、改革を目指すイエスの運動やその弟子たちに対しては既成勢力として弾圧さえしました。しかし、パウロはそのような立場から脱却してイエスへの信仰を得て、ユダヤ教の枠をはるかに超える点にまで到達したのです。彼の教えはその意味でユダヤ教から出発して全く異なる世界を作り上げていったのです。それがイエスの

教えは単にユダヤ教の範囲にとどまらず、全ての人に向かってなされた、世界の創造主の言葉と教えてでした。

パウロは先ずユダヤ教という枠組みにある様々な規律や約束事を一切廃止しようとしています。最も特徴的なことは割礼に対するパウロの姿勢です。ペテロがイエスの信仰に入るためには、やはり割礼が必要だと主張するのに対して、それを完全に否定します。彼は言います、したければしたら良い、しかし、しなければならないのではない。と。また、さらにペテロとの対立には食物のタブーからの解放でした。イエスへの信仰にはそのようなタブーはない、いつでも食べたいものは神様からの賜物として、感謝して頂くが良い、というのがパウロの主張でした。このような自由な考え方や行動に対する解放がユダヤ人の民族的な信仰の一部として始められたイエスの運動が世界のすべての人たちにとっての福音として広まる基となったのです。

ですから、私たちが常にここに止めておかなければならない重要なキリスト教の中心的なメッセージとは人間の自由ということなのです。時には、間違いもおかします。そのようなときは謝ればよろしい。みずからの課題を正直に認めようとする姿勢があればそれで十分なのです。

初代教会はそのことに気づきました。さまざまな社会慣習によってがんじがらめにされていたローマ帝国の民衆にとって自由こそが究極の救いでした。瞬く間に、イエスの運動はローマ帝国全土に広がりました。その基礎となったイエスの教えはこの二人のさまざまな文書によって大きな力を発揮したと思います。新約聖書の大部分を占める二人の文書、とりわけルカによる福音書と使徒言行録は異邦人が書いたイエスの教えという意味で興味深いと思います。しかもこの二つの文書は、ローマ政府の出先機関の長官の命令によって書かれたキリスト教に関する公的な報告書であるという事実です。ルカは極めて客観的に、しかもイエスの教えを正確に、不信仰者であるローマ帝国の官吏に率直に自己の信仰告白も含めてイエスの教えを述べています。その基調となるイエスの教えが自由という人間の生きるべき姿を一生懸命表現しようとしていることは、真に基調と思います。

人は神によって創られたという命題は、単に人の誕生についてだけ言っているではありません。人はどのような生き物なのかということを示している、人の存在にとっての大前提なのです。人

とは何か、という命題です。そこから人はどのように生き、どのように行動し、何をなすべきか、という課題が浮かび上がるのです。

パウロの書簡とルカの文書は、この重要な命題に対する答えを提出していると考えます。しかも、異邦人であるルカがユダヤ教から出発しているイエスの教えを述べることは私たち異邦人にとっても実に興味あることだと思います。ギリシア文化（ヘレニズム文明）にどっぷりつかっていたルカが、一転してパレスティナというローマ帝国の辺境に起こった教えをどのように受け止めたか、また、どのように理解し、そのために命をささげるまでに至ったか、その遍歴を感じ取れればと思います。どうか、これらの重要な文書をゆっくりとお読みくださることを願います。

□□□□□□ 前回の報告 □□□□□□

日本語英国教会 St. Martin's

10月の集まりは、新しく篠田さんとお子さん3人をお迎えし、体調が良好そうな園田先生を囲んで、「信仰と生活を考える」から始めました。

新教(プロテスタント)の始まりは、16世紀にローマカトリック教会の教義、特に免罪符のあり方や乱売に対する疑問/批判をきっかけにドイツのマルティン・ルターを中心に始まった宗教改革によるものです。その結果ローマカトリック教会から分離し、新教の源流(ルーテル派)が確立しました。

免罪符というのは、自分の犯した罪を金銭で解消するもの。昔も今も変わらず、人間関係の中で時に向き合わねばならない誤解や過ちなどの問題。自分の罪を認め、謝る。そして許す。そこに和解が生じるのであって、金銭で解決する問題ではありません。コリント人への手紙第2の5章17節には、キリストを通して神と和解する事が書かれています。主の祈りに「我らが罪を許す如く、我らの罪をも許し給え」とある様に、まず自分が他者の罪を許す事が先。謝罪も御礼も、まず先に言ってしまう事:それが人間関係を気持ち良く長続きさせる秘訣なのではないでしょうか、という園田先生のお話でした。

礼拝では、友紀さんが、「主の祈り」について解説して下さいました。祈りのはじめに、様々な表現を使って神への呼びかけをしますが、それは祈りの内容をあらかじめ明らかにすることで、私

たちの信仰告白になっています。「み名が聖とされますように」一神様が神として明確にされるように。「み国がきますように」一神の国が見えますように。「みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように」神様のみ心になつた生き方ができますように。「わたしたちの日ごとの糧を今日もお与え下さい」私たちに必要なものは神様から与えられていることを覚え、食べ物だけでなく、聖餐式を通して命のパンが与えられますように。「わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします」私達の罪だけでなく、他者の罪も、主イエスの十字架の死と復活によって神の赦しを与えられていることが分かりますように。「わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」神への私達の信頼が揺さぶられることがないように。「国と力と栄光は、永遠にあなたのものです」旧約歴代志上 29 章 11 節『主よ、大いなることと、力と栄光と、勝利と、威光とはあなたのものです。主よ、国もあなたのものです』アーメンは、ヘブライ語で「真にそうです」「そうありますように」の意味です。

『祈りは「神様、どうかそのようになさってください」と言っているのではなく、私達が「その実現の為に働きます」という宣言なのです。この意味で祈りは、私達の決意を表すものと言えます。（教会に聞く 竹内謙太郎司祭著から）

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

日本語英国教会 South East からの報告

昨年キリスト教の勉強会を始めた当初から、聖書の朗読についてのご要望をいくつも頂いておりましたので、勉強会とは別に新しく聖書を読む会を発足致しました。10月28日にその第1回目行われ、聖書に慣れ親しまれておられる方、又、そうではない方、それぞれの宗派を超えて、大変和やかな時を持ちました。聖書は和文・英文を併用致しました。

初回ということで、簡単な聖書の種類や歴史のご紹介の後、それぞれの福音書の著者や特徴についての説明に引き続いてルカの福音書を読み始めました。登場人物や時代背景等、必要があれば旧約聖書や関連箇所を参考にして、丁寧に内容を読んで行きたいと思っております。今回参加された皆様からは、下記のようなご感想を頂きました。

「ザカリアは長年司祭であったのに天使ガブリエルの言葉を信じられなかったが、乙女マリアは神を信頼していたので自分に起きる処女懐妊を素直に受け神を賛美したという。聖書の中でもなかなか美しい箇所です。英語での朗読も静かにゆっくり読んで下さってのがなかなかよかったです。聖書はゆっくりした気持ちでじっくり読むのが理想かと思います。」

「これまでの日曜日の勉強会以外で聖書に触れる機会がまず無かったので今回の聖書を読む会について行けるものか不安はありますが、まずは基本的な情報が役立ち、また英文での静かでゆっくりとした読み聞かせで、今まで頭に入りづらかった聖書の言葉がずっと入って来たように感じられました、また、英語、日本語の併用の聖書にも助けられました。今まで知識が無いため御伽噺のようにはか感じられなかった聖書が少し現実感のある身近なものに感じられました。」

「聖書のご紹介、内容の違いの意味などとても参考になりました。テオピロ様とテオピロの解釈の違いにまつわるエピソードなど面白かったです。Luke の Summary はこれから読み進んでいく中で要点を覚えておく上でとても参考になります。また、同じ事柄がどの福音書に書かれているかが一目でわかるチャートのご紹介も助かります。チャプターに入ってからの要所要所での質問も Luke が私たちに何を訴えたいのか、学んでほしいのかななどを考察する大切な機会になりました。」

次回は生誕祭の直前に、ルカの福音書第2章のイエスの誕生を読む予定です。

この、私たちに与えられた貴重な時を神に感謝しながらも、神の言葉を共に理解しながら、より親睦が深まる機会にもなりますよう、どうぞお祈り下さい。

Hall 美奈子 jac.selondon@gmail.com

□□□□□□ ご報告 □□□□□□

A celebration of Black and Minority Ethnic Saints from around the World – Sung Eucharist All Saints’ Day

11月1日諸聖徒日、上記の特別礼拝がセントポール大聖堂であり、私たちのグループから吉元さんと加藤さんと共に参加しました。CMEAC(The Archbishops’ Council for Minority Ethnic Anglican Concerns)発足30周年記念の一環として行われ、それぞれのマイノリティのコミュニティを代表する方々と共に、異なる国籍や文化背景をもつ聖人たちを覚えて聖餐式が行われました。

日本語英国教会 West Acton

11月20日（日曜日）

午後3時から 5時まで

聖餐式

司式：トム プラント神父

礼拝後、園田先生とトム神父を囲んで
懇親会を持ちます。

場所：St. Martin's,

Hale Gardens, LONDON W3 9SG

礼拝後にはティータイムをもちます。

皆様、お誘いあわせの上いらしてください。



Christmas Fair

12月4日 12時から3時まで St.Martin's 教会にて慣例のクリスマスバザーがあります。当日お手伝いできる方は Yuki までお知らせください。

**** なお、12月は集会はありません。**

来年の集まりは、2017年1月15日となります**

Commissioned Lay Minister : ジョンソン友紀

120 Carthorse Lane REDDITCH B97 6SZ

携帯（夜間のみ） 07503 893880

yukifunakawa@btinternet.com

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>

<http://www.geocities.jp/eikokukyokai07/>